



新千葉新聞社

# 大佐和中の屋内運動場に

## ふるさと納税で母校の改築工事に活用

### 富津市 (株)キミカが一千万円に寄付

アルギン酸の専門メーカー、(株)キミカ(代表取締役社長・笠原文善、



本社・東京都中央区)は十三日、富津市に對し、企業版ふるさと納税を一千円単位で寄付した。同社の「千葉プラント」事業所が富津市大堀にある。市役所で採納した寄付金は、(株)キミカが

ら笠原社長、宮島千尋取締役常務執行役員、楠山健千葉プラント管理部長、ラルマネージャークが来庁。

富津市からは高橋恭市市長、小泉義行副市長、岡根茂教育長、石井太企画政策部長、中山淳子教育部長が出席、笠原社長から高橋市長に目録が手渡され、記念写真に収まった。

富津市では同寄付金は、「のびのび学ぶ教育環境を整える」大佐和中学校屋内運動場改築事業」に活用される。

同社からの企業版ふるさと納税による寄付は令和四年度に続き二回目、このほかにも令和四年度から毎年、一般寄付や項目指定の寄

付が行われている。

今回の寄付について

笠原社長は、「大佐和中学校(旧大貫中学校)は自分の母校であり、母校への恩返しと思い、寄付させていただいた。今後も富津市の発展のために、出来ることとで貢献していきたい」などと挨拶し、有効活用を願った。

高橋市長は、毎年多額な寄付に感謝するとともに、「大佐和中学校屋内運動場の改築工事は予定になかった事業であり、給食センター建設と並行して行われていることから、今回の寄付は非常に有り難い。子どもたちの学ぶ環境の充実はなにより最優先させたい」などと、

今後も変わらぬ支援を

願い、同社の益々の発展を祈念した。

(株)キミカは、海岸に漂着した天然海藻から食物繊維「アルギン酸」を抽出して、有効活用することを目指し一九四一年に創業、以来八十年国内外で食品や医薬品などで世界のトップ企業になっている。

(写真は左から三番目が、寄付目録を高橋市長に渡す笠原社長)